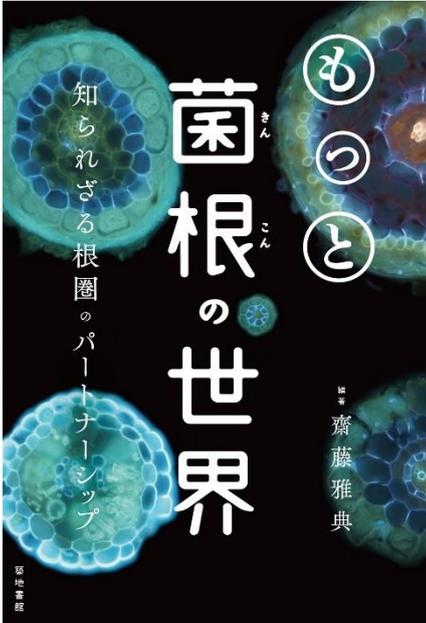


# ナルナル的 菌活書評

## 【もっと菌根の世界 知られざる根圏のパートナーシップ】



「80 パーセント以上の陸上植物は菌根菌という菌類(カビの仲間)と共生している。菌根菌が土の中に張り巡らせた菌糸で集めたリンやミネラルを植物に渡し、植物が光合成で作ったカーボンを菌に渡すという

パートナーシップは、植物が陸上進出した 4 億 5000 万年前から続いていると考えられている

しかしこの関係は、自分に利益をもたらさない相手には容赦なく制裁を加えたり、相手をだますことで「寄生」したりするシビアさももっているのだ。

次々に版を重ねている『菌根の世界』につづき、菌と植物のきってもきれない関係を気鋭の研究者 12 名が全 10 章とコラムでさまざまな角度から描き出す。」 出版社の紹介文より引用。

菌根菌といっても、ほとんどの人は知りません。けれど、とって身近なところに菌根菌は存在していて、ほとんどは地面の中で生息しているのですが、地上に顔を出す菌根菌がいます。それがキノコです。マツタケやシメジ・シイタケなどです。これらは菌根菌の仲間ではほとんどのキノコがそうです

この本の中で特に面白い章があります。

第 2 章 地下に隠れた菌根性キノコ・トリュフを探る(木下明彦)

## 『日本にもトリュフがあった。』

この章では、日本に生息しているトリュフについて詳しく解説しています。トリュフは世界三大珍味の一つで、フランス料理の花形で香りを楽しみます。このトリュフは土の中でジャガイモのような塊を作るので人目に付きません。ですから、トリュフが生息していても掘らないと見つからないのです。

日本の学名はセイヨウショウロ属といい、なんと、世界で発見された 86 種の四分の一に匹敵する事が判明しました。

最高級のシロトリュフに類似した品種も日本で発見されています。最高級品は、ネットで検索すると、「世界一高価な 2300 万円の白トリュフ、香港の晩さん会に」という記事が見つかりました。わずか、750 グラムという事です。トリュフの人工栽培の成功も報告されています。実用化には、まだ時間がかかりそうですが、菌根菌の生態を良く知る事で、栽培もやがて容易となるでしょう。

この書籍では、植物栄と菌根菌の関係やラン菌など、農業とかかわりある事柄もや多く掲載されています。植物愛好家にとっては必読の書物である事は確かです。

	低い ⇄ 高い
難易度	★ ★ ★ ★ ☆
活菌度	★ ★ ★ ★ ★
面白さ	★ ★ ★ ★ ★
新規性	★ ★ ★ ★ ★

書名	もっと菌根の世界 知られざる根圏のパートナーシップ
著者	齋藤雅典 [編著]
出版社	築地書館
発行日	2023/9/8
価格	本体 2,700 円+税